英語授業の小技

秋田県立秋田高等学校　教諭　伊藤　愛梨

１．はじめに

コロナ禍の休校やオンライン授業、授業動画のオンデマンド配信などがきっかけで、学校での授業の意義を考えるようになった。自分なりに出した「意義」をまとめると、次の３つとなる。

・「学び合う」授業
・「楽しく役に立ち、達成感のある」授業
・「自立した学習者」を育成する授業

私は、学校での学習の最大のメリットは学び合いができることにある、と考える。なぜなら、自分が今知っていること、気付いたことなどを逐一伝え合うことができるからだ。そのため、授業中ペアワークやグループワークを多く用いている。授業では、答えのすぐ出ない問いを生徒に投げかけることを意識しているため、彼らはペアで調べたり、知っていることを説明したり、考えを伝えたりする。「ジグソー学習」など、インフォメーションギャップを生じさせ、やり取りが多くなるような活動を取り入れることも多い。教科書＋αの内容を扱いながら他者と情報共有する活動を取り入れることで、生徒の学習意欲が向上すると同時に、英語を通して幅広い情報へのアクセスが可能になったり、多くの情報を共有することで知見が深まったりする。そうした積み重ねが、多角的なものの見方につながることを体感させるのがねらいである。

また、自己肯定感の低い高校生が多いことも感じているため、日々の授業で、どんなに小さくても、多くの成功体験をさせたい。そのためには、スモールステップでの活動や足場掛けを想定した教師の教材研究が重要になる。

さらに、生徒たちが大学や就職先で英語を学び直す必要性に迫られる可能性を考え、辞書や文法書の活用方法、各スキルのトレーニング方法はできるだけ詳細に伝えるよう心掛けている。自分自身が一番実感していることだが、英語をツールとして使えることで、人生が豊かになると思うため、このことを生徒が体感できるよう指導していきたい。

これらのことを基に、「英語授業の小技」として２つの事例を紹介したい。

２．英語授業の小技①

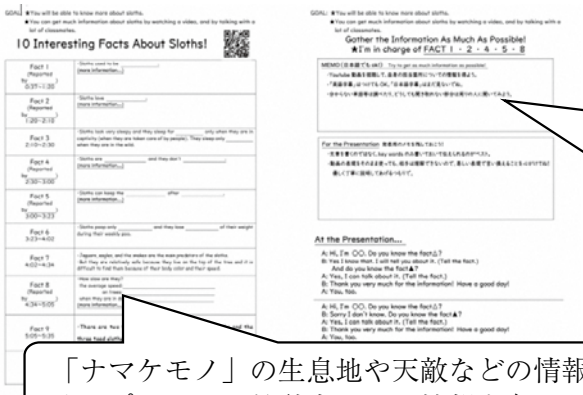
YouTube動画や本、論文、新聞記事などオーセンティックな題材から情報を得ることで英語学習のモチベーションを上げることができる。この活動例は、英語で得た情報を理解し、取捨選択した上で伝えるトレーニングとして行った。

１．活動名	ICTを活用し学びを深めよう！
２．時間	１コマ
３．使用題材	「ナマケモノ」を題材にした長文、YouTube動画
４．活動内容	・教科書の文章の内容理解→教科書から得られない情報についての問いを投げかけ、４人１グループで情報収集する。
５．教材	教科書＋αの問い、調べたことを記入できるワークシート、YouTube動画等の情報源

〈成果〉
・オーセンティックな英文を理解できるようになった。
・学ぶ意欲とチャレンジ精神の醸成につながった。

〈課題〉
・題材探し、パラフレーズ、ワークシートの作成等、教師サイドの労力が大きいこと。
・どの教員でもできる教材にしていくこと、汎用性を高めること。

〈YouTube動画の中から授業で使えそうなものを選ぶポイント〉
・長すぎず、動画の中に文字やイラストが多く用いられているもの
・英語字幕が表示できるもの（日本語字幕が表示できるものもあるが、設定させない）
・再生回数やチャンネル登録者数が多いもの
・各国の政府やテレビ局、大きな団体のもの
・子供向けに説明されているもの



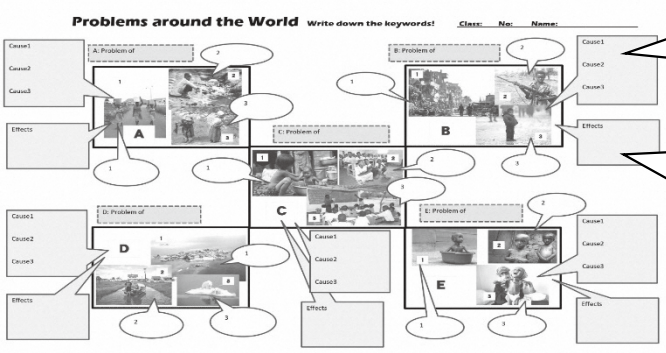
得た情報をワークシートにまとめたあと、異なるメンバーの班を構成し、学んだ内容について英語で情報交換する。

「ナマケモノ」の生息地や天敵などの情報は教科書から得ているが、好きなものや、動くスピードなど教科書にない情報を各グループに与える。YouTube動画を単一の情報源とし、それぞれの班で情報収集をした。

３．英語授業の小技②

世界が抱える問題や現状に目を向け、最適解を模索する機会とすること、そして得た情報を英語で伝えたり意見交換したりすることに慣れることをねらいとして行った。

この事例では、教科書で扱った「戦争」についての話題を基に、世界が現在抱えている問題をSDGsと絡めて考えさせた。具体的には、「戦争」、「水」、「教育」、「環境」、「飢餓」のトピックについてTIMEの記事等を少し易しい語彙に書き換えた英文を与え、生徒は他グループへのプレゼン等を行った。

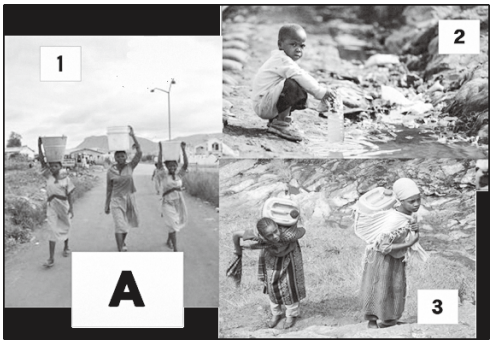


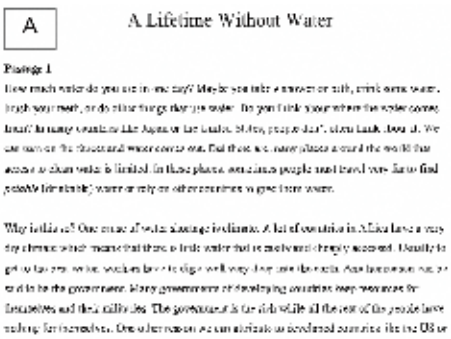
読ませる記事やワークシートを工夫して、できるだけ読み取らせる内容を焦点化するよう心がけた。

できるだけメモから顔を上げて他のメンバーの顔を見ながら発表させたかったため、ワークシートにはキーワードだけを書くように伝えた。
大きな記入欄を設けてしまうと文を書くことができてしまうため、記入欄を小さめに設定している。

＜２コマ目＞

１．活動名	SDGsを考える
２．時間	２コマ
３．使用題材	長文の題材（今回は「戦争」を題材にした長文）、教科書以外の英文記事４つ程度
４．活動内容	＜１コマ目＞ ・世界が現在抱えている問題を挙げ、SDGsの説明をする。 ・「戦争」、「水」、「教育」、「環境」、「飢餓」のトピックについてオーセンティックな文章をパラフレーズしたもの（下記参照）を与える。 ・生徒は、内容理解を進め、プレゼンの準備をする。 ＜２コマ目＞ ・異なる問題について調べた内容を、ペアで情報共有する。 ・元のグループに戻り、自身が得た情報を再度グループで共有する。 ・解決方法が提示できそうなものを１つ選び、グループで解決策を話し合う。 ・話し合ったものの中から自分にもできそうなことについて英作文をさせる ※優秀作品は英字新聞の投書に応募する。
５．教材	世界が抱える問題についての文章（４～５種類程度）、情報をまとめるためのワークシート、解決策を書き込む付箋や大きめの用紙（Google Jamboardでも可能だが時間がかかる、顔を合わせての対話がなくなる、などのデメリットがあった）など




A

A Lifetime Without Water

Passage 1

〈語彙が難しい場合の工夫・手立て〉

オーセンティックな教材を使おうとすると、どうしても語彙が難しいため、逐一辞書で単語を調べる生徒が出てくる。情報収集というよりも単語を調べることに多くの時間を費やしてしまうことになるため、次のように工夫している。

① オーセンティックなものをパラフレーズ（リライト）する。→「本物」を読むことにはならないが、読むスピードは上がるため情報収集に集中させられる。

② キーワードになりそうな単語をあらかじめリストアップしておいて、主要な単語リストを配付する。

③ 基本的にGoogle翻訳などのオンラインツールは使用禁止。辞書等の使用は逐一調べるのではなく、カギになりそうな単語に限定したり、あらかじめ個人やグループで推測させたあとに調べさせたりするなど、「やみくもに辞書をひく」という状態を避けるようにしている。

〈成果〉

・諸問題を自分事として捉える生徒が増えた。

・世界に関心を持つことで社会貢献意識の醸成につながった。

〈課題〉

・海外の生徒とのやり取りをしたい。

・解決策が表面的になりやすい。

・他教科との連携が効果的であること。

〈活動をスモールステップに設定した具体的な手だて〉

１回目の情報共有では１対１、２回目の情報共有では１対３で実施させた。また解決策を話し合わせる際にも、まずは個人で考えさせ、それをペアで共有させたあと、４人グループで話し合わせた。このようにスモールステップを踏みながら英語を話す機会を与えることで、少しずつ自信を得ながら英語でコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られた。

４．まとめ

小技②の授業を行った際、そのような問題があることを知ってはいるものの、具体的に調べたことのある生徒は少なかった。同世代の子どもたちのエピソードや非識字率の高さ、そのような問題が生じる原因などを知った生徒たちはとても驚いていた。これらの情報共有をさせてから解決策を考えさせたため、より問題を身近なものと捉え、より真剣に取り組んでいるように感じた。１年次の後半で実施した授業だったが、「SDGs」というワードを初めて知った生徒もいたことも事実である。

生徒には教科書の内容を契機として、世界の出来事に目を向け、グローバル社会で暮らす一員として世界の様々な問題を「自分事」として捉え、主体的に解決策を模索していってほしいと思う。そのためにも、冒頭で述べた「授業の３つの柱」を具体化した活動を積み重ね、生徒の姿に反映させていけるよう、今後も努力を続けていきたい。